

第3回長崎大学高度安全実験(BSL-4)施設設置に関する有識者会議 議事要旨

- 1 日時 平成27年5月18日(月) 17:00~18:30
- 2 場所 長崎大学グローバルヘルス総合研究棟4階 中セミナー室1
長崎大学東京事務所(TV会議)
- 3 出席者 10名
加藤史子、西條政幸、滝順一、朝長万左男、濱田篤郎、福崎博孝、蒔本恭、
宮崎辰弥、山下肇、吉田茂視
- 4 列席者
長崎大学：調漸、森田公一、安田二郎、宮崎泰司、深尾典男、嶋野武志、
堀尾政博
(オブザーバー)
長崎県：福祉保健部医療政策課課長補佐・出田拓三
長崎市：企画財政部都市経営室主幹・古賀陽子、都市経営室係長・井上琢治、
総務部総務課主幹・鷺見賢一、市民健康部地域保健課長・高木規久子
その他オブザーバー
- 5 構成員の紹介
今回から出席の吉田委員から自己紹介があった。
- 6 議事
BSL-4施設の設置場所、情報開示・運営体制について
(1) 前回の会議での指摘事項等に関する回答説明(公開)
長崎大学から資料2に基づき説明があった。
(2) 討議(非公開)
議長から、これまでと同様に、即答できる質問については即答し、即答できない質問については次回回答をお願いしたい旨依頼があった後、概ね次のような質疑応答があった。
(※ ○は出席者またはオブザーバー。△は事務局の長崎大学。)
○ 敢えて市街地にBSL-4施設を設置する理由であるが、記載内容は理解できる。ただし、現在の回答は設置者側からの視点で記載されているが、周辺住民の視点での利便性等地域に還元できることがあれば、追加した方がいいのではないかと。
△ これまであまり強く言ってきたではないが、長崎大学の強みを生かし国際的に誇れるBSL-4施設を設置することにより長崎大学が生き残ることが、地域創生や人口減少への対応が叫ばれる中で、地域にも貢献する側面があると考えている。
○ そういう長崎大学の考えを伝え、地域住民と十分なコミュニケーションを図ることが重要ではないかと思う。
○ 設置候補地については、地域住民に対し、かなり配慮された場所になっている。感染症における日本の大学のトップとして是非成功させて欲しい。そのためには、地域住民に対し、丁寧に説明することが重要である。
○ 長崎大学の生き残りをかけてという話があったが、大学が生き残ることが地域にとってどう重要なのかをより明確にした方がよい。例えば、地域の若年層の人口流出を防げるとか、諸外国から優秀な若者を受け入れるメリットなどの観点からも大学が生き残ることが地域にとっても重要であり、そのた

めにもBSL-4施設を設置することが重要であると説明した方が大学関係者以外の方にも重要性が伝わるのではないか。

また、市街地設置の重要性に関連して、大学以外の設置候補地はないのか。もしそれがあある場合、比較検討した結果、大学内に設置することが適切であるという理由があれば、より説得力が増すのではないか。

△ 長崎大学以外の所有者が保有する土地全てについて検討したとは言えないが、長崎大学が所有する土地に設置するのであれば、本日提示した場所が最適であると考えている。ただし、他に適当な提案があれば、検討する価値はあるとも考えている。

なお、本日この会議が開催されているグローバルヘルス総合研究棟は、長崎大学の強みである「感染症」に関する人材育成を行う日本で例を見ない「熱帯医学・グローバルヘルス研究科」の設置に先立ち整備されたものであり、長崎大学の強みが具現化されたものである。

○ これまでいろいろな疑問に対し丁寧に回答していただくとともに、本会議以外の場でも個別に疑問点に関して説明をしていただいている。引き続きそのようにお願いしたい。

また、大学から安全だ安全だと説明されれば、かえって不安になるという声も聴くので、これまで同様、危険だから安全に万全を期す、というスタンスで説明をお願いしたい。

BSL-4施設が稼働した場合、動物実験はBSL-4施設であるのか、現在の動物実験施設であるのか。

△ BSL-4病原体に関する動物実験はBSL-4施設で行い、現在設置している動物実験施設ではBSL-3までの病原体に関する動物実験しか行わない。

△ 動物実験室については、五重、六重のバリアを設置予定であり、動物が逃げ出すことはない。そのことも資料に追加したい。

○ 設置候補地がキャンパスの端ではなく、中央に計画されていることを知り、良いことだと思うし、安心した。

○ 質問6の説明で、「他方、坂本キャンパスに設置すれば、」のところは、やや強引に書かれているように読めるので、少し書き方を工夫してはどうか。

また、質問14の長崎への経済効果に関連して、ドイツのハンブルグとマールブルグの製薬会社の集積状況が書かれているが、BSL-4施設の設置に伴い製薬会社の数が増加し経済効果があったのであればそういう風に記載するなど、地域住民への効果を目に見える形で追加した方がいいのではないか。

長崎大学は感染症の拠点であり今後それを発展させていくとか、国際化の象徴である長崎に国際感染症を取り扱う施設があるのは重要なことであるとか、もっとポジティブにアピールした方が市民の方々も納得されるのではないか。

△ 地域のメリットとしては、世界に誇れる施設が地域の中に設置されているということもあげられるかもしれない。

△ 今日、福岡でエボラ出血熱の疑い例が出たが、仮に長崎でエボラ出血熱の疑い患者が発生した場合、今日見ていただいた大学病院の国際医療センターと連携し、検体を東京まで運ぶことによるタイムラグなしに、早期発見、早期封じ込めが可能となることも、地域への大きな貢献になるのではないかと考えている。

○ 長崎の歴史と関連付けて説明することも重要ではないか。西洋医学発祥の

地である長崎に感染症のトップの施設を作り、社会に貢献するというようなことも記載した方がいいのではないか。

- 地域住民の居住地から離れている場所に設置を計画していることは、住民に安心感を持っていただけるのではないか。

また、地域住民の直接的なメリットではないが、こうした研究施設の設置は、市民社会の衛生や健康管理の発展につながり、それが地域住民にも還元されることにもなるのではないか。

- ウイルスは外気中では短時間で死滅してしまい、生物兵器に使えるようなものではないかもしれないが、一般の人は、怖い病原体があれば、それを悪いことに利用しようとするテロの標的になるのではないかと危惧を抱く人もいると思うので、テロ対策をより充実させた方がいいのではないか。リスクを洗い出し、考えられるリスクは記載しておいた方がいいのではないか。

△ テロ対策は重要な検討課題である。海外の施設などの情報収集をさらに行い、建物の構造、施設の警備、研究者の身元調査、トレーニング等の安全確保対策について、引き続き検討したい。

- 出てきた課題については概ね回答いただいているが、残ったいくつかの検討課題について、今後どのように検討を進めていく予定なのか。

△ 予算に関係する検討事項もあるので、今後、国とも相談しながら検討していく予定である。

- 今年被爆70周年を迎えるに当たり、長崎大学の歴史を踏まえたBSL-4施設設置の位置付けなども考える必要があるのではないか。

また、学生や住民の安全を守るのは国の役目であり、しっかりした対応策を求めたい。

△ 次世代の長崎大学の夢をかけた施設であるということを地域住民と共有できれば、と考えている。

警備体制等については、諸外国の状況を今後調査し、検討を続けたい。

- テロ対策については、今後政府から何か言ってくる可能性があるのか。
- △ 資料3の別紙3にあるように、現在、内閣総理大臣補佐官を長とする「エボラ出血熱等国際感染症対策に関するチーム」が編成されており、そこで今後何らかの検討が行われるものと思われる。

- 情報公開については、今日紹介のあった米国テキサス大学ガルベトン校の地域協議会の事例などを参考に今後検討されるのかもしれないが、例えば、地域との協議会を作る場合、その範囲はBSL-4施設と地域の関係に限るのか、それとも大学全体と地域というくくりで設置して、その中でBSL-4施設と地域の関係のことを協議するのか。

△ 長崎大学と地域住民との間で協議や情報交換ができる場を作ることを現在学内で検討中である。どういう形態がいいかはさらに検討したい。

また、BSL-4施設に関しては、長崎県、長崎市及び長崎大学の3者で感染症研究拠点整備に関する基本協定を近い将来締結予定であり、その中で協議機関等を設置する予定としている。協議機関等の内容については、決定次第、報告したい。

(3) 次回の開催予定について

次回の開催予定：平成27年6月3日（水）15時から

以上